

齧齒類の解放

開始条件: レベル5のマインドシーフ

目的: 敵の全滅

序幕:

「タスケテ……」冷たい汗をかきながら、悪夢から目覚めた。この街の地下深くのどこかで、仲間のドブネズミが苦痛に震え、助けを求めている。

装備品を引っ掴み、地下水道の暗いトンネルに向かって走った。その間もドブネズミの群れからの精神伝達には気を配っていた。どうやら悪意ある力によって閉じ込められたらしい。そして彼らの意志が、暗黒の儀式のために使われることになっているのだという。皆を自由の身にしなければならない。

少し開けた場所に出ると、頭の中の声は大きくなった。ようやく同胞の一団と出会えたのだ。疲れきった表情のヴァームリングの斥候隊が、背後の扉に対して防御態勢をとっている。ここで何をしているのか尋ねた。すると自己弁護の言葉ばかりが返ってきた。なるほど。そういうことなら、友を助けるために、後悔なくいつらを倒すことができる。

特別ルール:

すべてのヴァームリングの斥候のレベルは、シナリオのレベルより1つ低いものとなります。



扉を抜けて急いだ。すると、不快な臭気が波のごとく全力で鼻孔に襲いかかる。なんらかの異端の魔術が進行中だと悟り、心が揺らいだ。この魔術を止めねばならない。

特別ルール:

君はただちに5ダメージと毒[☠]を受けます。各ラウンド終了時、毒[☠]状態でなかったら、3ダメージと[☠]を受けてください。この効果は、すべての祭壇^aが破壊されたときに終わります。各祭壇のHPは、3+Lです。



咳きこみ、吐き気を催しながらも、疑わしい壁のくぼみから中に入りこんだ。少し開けたところで、3体のヴァームリングが深い瞑想状態になっていた。奴らは目覚め、威嚇のために動きだしたが、その前に毒霧の影響は何とか消えていた。

特別ルール:

全ヴァームリングが倒れたら³を読んでください。



遂に最後のヴァームリングが倒れた。部屋の中央にある格子から、茶色い煙が立ち上っている。その瞬間、恐怖とともに理解した。みずからの手で、すでに儀式に必要なものを提供してしまったのだ……血の供物を。

煙の中から、巨大な大地の魔神が具現化する。仲間を助けるための、これが最後の関門なのだ。

特別ルール:

上級モンスターの大地の魔神を1体、ヘクス^bに配置します。そのHPはHx2です。Hは、上級モンスターの大地の魔神の通常のHPの値です。

終幕:

なんとか暗黒の儀式を終息させることができた。ドブネズミたちから伝わってくる安堵の気持ちが、全身を満たす。そしていろいろな隠れ場所から出てきて、祝うように群がってきた。その絆がより強くなっていると感じる。いまや身に帯びていた刃には、覇気が溢れていた。

報酬:

アイテム 139 番〈心霊の短刀〉



使用する
地形タイル:

E1a
H2b
D1a

